

〔共同研究：インドネシアにおける地域社会の変容〕

インドネシアにおける都市化の諸側面

——1990年と2000年の50都市の比較から——

深 見 純 生*

1. はじめに

インドネシア地域の2000年の歴史の中で20世紀後半の特徴のひとつは都市への著しい人口集中である。その歴史学的な研究は今後本格化すると思われるが¹⁾、本稿ではその予備的研究として20世紀末期におけるインドネシアの都市化のいくつかの側面を明らかにする。紙数の限られた本稿では多方面にわたる都市化に関して議論が拡散するのを避けるため、1990年と2000年の50都市のリストの比較に問題を限定する。すなわち都市化をもっぱら都市人口の増加（場合によっては減少をともなう）としてとらえ、それを特定の都市について扱うのではなく、20世紀末の10年間のインドネシアという国家全体における特徴に迫ろうとするものである。

なお、本稿は桃山学院大学総合研究所共同研究プロジェクト「インドネシアにおける地域社会の変容」（2004～2006年度）の研究成果の一部である。

2. 都市部人口・村落部人口の増減

本題に入る前に、1990年と2000年の全人口、都市部（daerah perkotaan）の人口と村落部（daerah pedesaan または daerah perdesaan）の人口の変化をみておく。インドネシア中央統計局（BPS: Badan Pusat Statistik）は都市部の定義を次のように示している [BPS 1992: 29]。

人口密度、農家比率、自動車道路・映画館・学校（小中高）・医療機関・銀行等の立地状況およびこれらへの平均距離などが一定条件を満たす行政村。

行政村はデサないしくルラハン（desa/kelurahan）のことで、州―県・市（県と市は同格）―郡―行政村という4レベルの地方行政機構の最末端に位置する。おおむね村落部にあるものがデサ、都市部にあるものがクルラハンである。この定義からすると、行政上の市（kota, 旧制度のコタマドヤ kotamadya）の中の行政村はすべて都市部に分類されるが、市域外にも都市部に属する行政村が存在する。都市的村落というような概念が必要かもしれない

*本学文学部

1) インドネシアにおける都市化や都市の歴史についての研究は、とくにジャカルタについて数多いが、ここでは先行研究として宮本1999をあげるにとどめる。

キーワード：インドネシア、人口、都市化

(第4節⑥参照)。

この定義にいう「一定条件」の具体的内容は筆者には不明である。したがって、ここに取り上げる1990年と2000年の数字が同じ基準に基づくかどうか不明であるが、ここでは同じ基準が用いられているものとする²⁾。

1990年センサスの村落部人口は69.1%、都市部人口は30.9%であり、総人口は179,379,000人である [BPS 1992: 28]。前者は123,951,000人、後者は55,428,000人となる。2000年センサスでは総人口201,242,000人に対し、村落部人口115,861,000人、都市部人口85,380,000人である [BPS 2001: 2]。前者が57.6%、後者が42.4%となる [BPS 2005: 28-29 参照]。

このような村落部人口・都市部人口・全人口の増減および村落部人口・都市部人口構成比の増減を表にしたものが表1と表2である。

表1 村落部人口・都市部人口・全人口の増減 (1990・2000年)

	1990	2000	増減
村落部人口	123,951,000	115,861,000	6.5%減
都市部人口	55,428,000	85,380,000	54.0%増
全人口	179,379,000	201,242,000	12.2%増

表2 村落部人口・都市部人口構成比の増減 (1990・2000年)

	1990	2000	増減
村落部人口	69.1%	57.6%	11.5 ポイント減
都市部人口	30.9%	42.4%	11.5 ポイント増
全人口	100.0%	100.0%	

この10年間に総人口は179,379,000人から12.2%増えて201,242,000人になったのに対し、村落部人口は123,951,000人から6.5%減って115,861,000人になり、都市部人口は55,428,000人から54.0%増えて85,380,000人になった。

いま注目されるのは、全人口の伸び12.2%に対して、一方で村落部人口が減少しており、他方で都市部人口の伸びが54.0%と著しいことである。

また全人口に占める都市部人口の比率は30.9%から42.4%へとやはり著しく増加している。

3. 50都市のリスト

本稿が分析の対象とする資料は1990年と2000年のセンサスにおける人口の多い50都市のリストである (表3)。

この表の左半分は1990年の順位、都市名、人口である。右半分は2000年のそれであるが、右端(☆)に1990年の順位を再度示してある。元の資料にはないことだが、都市名の字体に

2) 1961年から2005年までの都市部・村落部比率の変化を概観する BPS 2005: 28-29 では1990年と2000年について下記と同じ数字をあげているが、この基準やその変化への言及はない。

表3 インドネシアの大都市50 (1990・2000) [BPS 2000: 9-10]

順	都 市	1990年	順	都 市	2000年	☆
1	スラバヤ	2,483,871	1	スラバヤ	2,588,816	1
2	東ジャカルタ	2,067,213	2	東ジャカルタ	2,348,962	2
3	バンドゥン	2,058,649	3	バンドゥン	2,141,837	3
4	南ジャカルタ	1,913,084	4	西ジャカルタ	1,910,470	5
5	西ジャカルタ	1,822,762	5	メダン	1,899,327	6
6	メダン	1,730,752	6	南ジャカルタ	1,792,214	4
7	北ジャカルタ	1,369,639	7	ブカシ	1,639,286	—
8	スマラン	1,250,971	8	パレンバン	1,441,522	9
9	パレンバン	1,144,279	9	北ジャカルタ	1,440,457	7
10	中ジャカルタ	1,086,568	10	スマラン	1,345,065	8
11	マカッサル	944,685	11	タンゲラン	1,311,746	—
12	マラン	695,618	12	デポク	1,146,055	—
13	バンドルランブン	636,706	13	マカッサル	1,091,643	11
14	パダン	631,543	14	中ジャカルタ	892,750	10
15	スラカルタ	504,176	15	マラン	749,768	12
16	バンジャルマシン	481,371	16	ボゴール	743,478	25
17	ジョクジャカルタ	412,392	17	バンドルランブン	743,109	13
18	サマリンド	407,339	18	パダン	711,351	14
19	ブカンバル	398,694	19	ブカンバル	582,240	19
20	ポンティアナク	397,343	20	バンジャルマシン	532,556	16
21	バリクパパン	344,405	21	デンバサル	522,785	—
22	ジャンビ	339,944	22	サマリンド	521,471	18
23	マナド	320,990	23	スラカルタ	488,834	15
24	アンボン	276,955	24	ポンティアナク	473,000	20
25	ボゴール	271,711	25	バタム	434,299	45
26	チルボン	254,878	26	ジャンビ	416,841	22
27	クディリ	249,807	27	バリクパパン	406,833	21
28	プカロンガン	242,874	28	ジョクジャカルタ	395,604	17
29	トゥガル	229,713	29	マナド	371,197	23
30	プマタンシアンタル	219,328	30	マタラム	314,968	—
31	バンダアチェ	184,699	31	チレゴン	295,766	—
32	ビンジャイ	181,904	32	チルボン	269,186	26
33	プロボリングゴ	177,120	33	パル	268,322	—
34	ブンクル	170,327	34	プカロンガン	261,469	28
35	マディウン	170,242	35	スカブミ	252,293	38
36	パスルアン	152,409	36	クディリ	242,211	27
37	マグラン	123,213	37	プマタンシアンタル	240,831	30
38	スカブミ	119,981	38	トゥガル	236,260	29
39	ゴロンタロ	119,780	39	クバン	235,912	—

40	ブリタル	119,011	40	ブンクル	231,666	34
41	トゥピンティンギ	116,767	41	バンダアチェ	219,070	31
42	パンカルピナン	113,163	42	ビンジャイ	213,222	32
43	パラカラヤ	112,562	43	アンボン	206,210	24
44	タンジュンバライ	108,202	44	クンダリ	198,762	—
45	バタム	106,667	45	プロボリングゴ	192,561	33
46	パレパレ	101,527	46	ドゥマイ	172,984	—
47	モジョクルト	99,955	47	ジャヤプラ	172,723	—
48	サラティガ	98,072	48	パスルアン	168,164	36
49	バヤクンプ	90,872	49	マディウン	163,953	35
50	ブキティンギ	83,811	50	テルナテ	163,467	—

よってその都市がジャワ島の都市（明朝体）か、外島（ジャワ島以外）の州都（ゴシック体斜字）か、外島の非州都（行書体太字）かを区別してある。

このふたつのリストの比較を手がかりに、上記のような著しい都市化の内実に可能な限り迫ってみたい。

なお、市の数はオランダ植民地時代末期に31であった [池端1999: 286]。独立後の1955年には38、1960年に47、1963年に53と増加したが、スハルト「新秩序」体制下ではほとんど増えず、1990年になっても55であった [BPS 2005: 7]。表3の1990年は全55市中の50市、つまり市のほとんどを網羅していることになる。1990年代に増え始め、1995年に62、2000年に73になり、2005年には91にと大幅に増えている [BPS 2005: 7]。市の増加という行政制度の側面からも1990年代以降の都市化が顕著であることがわかる。

4. 都市化の進展

このリストから都市化の著しい進展を見ることができる。それはいくつかの点に現れており、これを都市の規模別に見ていくことにする。なお、ここでは人口に100万と50万という区切りを設けて分析するが、この数字に特別の意味があるわけではなく、便宜的なものである。

① 100万都市の増加

100万都市が10から13に増えている。

じつはジャカルタが行政的に5つの市からなっているので、ジャカルタを1つに数えるなら、6から10に増えている（中ジャカルタが100万都市から転落している）。

新たな100万都市のうち、プカシ、タンゲラン、デポクはジャカルタに隣接するものである（第6節参照）。これを別にすると、実際に新たに100万都市になったのはマカッサルだけである。マカッサルは1990年にすでに、他の中規模都市よりもずば抜けて大きく、94万の人口を有して100万都市に近かった。

② 100万都市の二極化

上記のブカシ、タンゲラン、デボクを別にすると、この間に人口が10%以上増加している100万都市は東ジャカルタ（13.6%増）、パレンバン（26.0%増）、マカッサル（15.6%増）に限られる。ついでメダン（9.8%増）である。

ジャワ島では大ジャカルタで100万都市が出現しているのと対照的に、その他の100万都市の人口増加は顕著でないことがわかる。いずれの都市でも市街地や住宅地が市域外へ拡張しているが、ジャカルタでそれがとくに顕著である。その意味で、ジャワ島の100万都市においては大ジャカルタとそれ以外の二極化が起こっていることになる。

かくして、100万都市の人口増加が顕著なのは、大ジャカルタと外島の各地域の首位都市であることがわかる。

③ 中規模都市の増加

人口50万以上100万未満を中規模都市とみなすなら、これも5から9に増えている。ただし中ジャカルタは100万都市から脱落したものである。

ここでも外島における都市化が顕著である。デンバサルが新たに登場したほか、サマリンドは28%の人口増加を示している。

④ 小規模都市の拡大

下位都市に目を転じるなら、50位の都市の人口が8万3千から16万3千に倍増していることが注目される。先に指摘したような市の数の増加が背景にあるが、10年前の2倍の人口がないと50位以内に入れなくなっているのである。

⑤ 50都市の人口は29%の増加

1990年の50都市の人口を合計すると2770万であり、2000年は3578万である。その差の807万は2770万に対して29%の増加である。この間のインドネシアの全人口の増加は先に見たように12%であるので、全人口の増加よりも上位50都市の人口増加の方が顕著に多いのである。この数字にも都市化の進展が現れている。

⑥ 全国的な都市化の進展

ところが、この間の都市部人口の増加は先に見たように54%である。これは上位50都市の29%よりかなり高い数字である。すなわち、都市化は各地域の首位都市や主要都市、さらに上位50都市に限られるのではなく、もっと広範な全国的な現象であることがわかる。前記④小規模都市における人口増加とあわせて考えると、都市化は小規模都市を含めて全国的に進んでいることがわかる。

他方で、⑤でみた50都市の増加人口807万は、この間の都市部の増加人口2995万（表1の55,428,000と85,380,000の差）の27%でしかない。都市部の増加人口の73%は上位50都市以外で増えていることになる。この数字は、都市化が特定の都市ではなく全国的に進んでいるという以上に、村落の都市化を想定すべきことを示唆していると思われる。都市的村落という概念が必要かもしれないし、先に述べたように都市部の定義に関わる問題でもある。

5. 新 旧 交 代

ここで1990年と2000年の50都市のリストにおける新旧交代とそこに見られるいくつかの特徴を確認しておこう。

① 12市が新登場

50市のうち12市が姿を消し、12市が新登場している。50のうち12が交代するのはかなり顕著な現象というべきであろう。ジャワ島は24市を数えるが、4市が姿を消し、4市が新登場している。26市の外島では8市が姿を消し、8市が新登場している。外島において出入りが激しい。

② ジャカルタの肥大化との関連

ジャワ島で新登場の4市のうち3市はジャカルタに隣接するブカシ、タンゲラン、デボクである。残りのチレゴンはジャカルタの西方に位置し、ジャカルタと高速道路で結ばれた産業都市として急成長している。ジャワ島で新たに登場した都市はジャカルタの肥大化あるいはジャカルタを中心とする経済発展、あるいはまた政治・経済・社会のさまざまな側面でのジャカルター極集中の傾向に関わりがあるといえよう。ジャカルタの肥大化に関しては後に取り上げる。

③ 外島では州都が新登場

外島で新たに登場した都市は1市（46ドゥマイ）を除いて、すべて州都である。外島では州都を中心とする都市化という現象が明らかである。これも後に取り上げる。

④ 姿を消した地方都市

姿を消した都市は当然ながら1990年のリストの下位に集中している。すなわち1990年の37位（マグラン）から下位では、38スカブミと45バタムを例外として、リストから姿を消している。ジャワ島で4市（37マグラン、40ブリタル、47モジョクルト、48サラティガ）、外島で8市（39ゴロンタロ、41トゥビンティンギ、42パンカルピナン、43パラカラヤ、44タンジュンバライ、46パレパレ、49パヤクンプ、50ブキティンギ）である。外島の8市のうち州都は43パラカラヤのみであり、他はすべて州都ではない。非州都の転落は③で見た州都の新登場と裏腹の関係にある。

これらがリストから消えた原因は、先に指摘したように、都市化が全国的な現象である以上、これらの都市の人口が減ったのではなく、他に人口増の著しい都市があったためと推定される。

6. ジャカルタの肥大化（およびドーナツ化）

先に指摘したようにジャワ島の100万都市の人口増加では、大ジャカルタとその他の二極化が起こっている。ところが、ジャカルタ自体でも二極化が進んでいて、東・西・北ジャカルタで人口が増えているが、南・中ジャカルタでは減少している。とくにオフィス、ホテル、

ショッピングモール等々の官・民のビル街として一層発展している中ジャカルタが108万から89万へと大幅に減少しているのが注目される。順位も10位から14位へと下がっている。いわゆる都市のドーナツ化つまり中心部での人口減少と周辺部での人口増大が顕著に進んでいる。南ジャカルタも同じ原因で人口が減り順位が下がっている。

周辺部における顕著な人口増加は、1990年のリストにないブカシ（ジャカルタの東）、タンゲラン（ジャカルタの西）、デポク（ジャカルタの南）が100万都市として登場していることに如実に現れている。また25位だったボゴール（デポクの南）が27万人から74万人に急増して16位になっている。ジャカルタ5市のなかで東ジャカルタが顕著な人口増加を示している（第4節②）のはブカシ市と同じく住宅団地の開発による部分が大きく、その背景にはブカシ県やカラワン県などにおける工業団地の立地がある。

こうしたジャカルタの肥大化あるいは周辺部での顕著な都市化や人口集中を反映して、1980年代からジャボタバック Jabotabek という言葉が使われている³⁾。すなわち、ジャカルタ Jakarta に周辺の3県つまりボゴール Bogor+タンゲラン Tangerang+ブカシ Bekasi を結合した省略語である。

タンゲラン、ブカシ、デポクの3市が2000年のリストに新登場したのは、1990年代に当該地域において市政が施行されて県から独立したためである。その具体的な詳細は筆者には明らかでないが、タンゲランは1994年、ブカシは1997年に県から独立して市になった〔宮本1999: 87, 350〕。デポクについては加納啓良の調査報告がある〔加納2006〕。これによれば、デポクはボゴール県内の郡であったものが1981年「町」(kota administratif) になり、1999年に周辺のいくつかの郡を合併して「市」(kota) に昇格した。このとき市域は67平方キロから207平方キロへと3倍以上に拡大した。人口は1995年に35万だったものが1999年に87万になり、2001年には120万を超えたという。

またボゴールの人口急増についても筆者には詳細不明だが、市域の拡大をとまなうものと推測される。

かくして、大ジャカルタの人口は行政上の市だけで、つまりジャカルタ5市とボゴール、タンゲラン、ブカシ、デポク4市の合計9市で1300万以上になる。行政的に県のもとにある部分を含めれば当然もっと多くなる。

7. ジャワ島のその他の都市について——停滞かドーナツ化か

ジャワ島には中規模都市が3市ある（マラン、スラカルタ、ジョクジャカルタ）。このうち中部ジャワ南部のふたつの中心都市スラカルタとジョクジャカルタは順位を下げていただけでなく人口が減少している。この数字だけを見ると地方都市の衰退現象かと思われる。

3) インドネシア語の辞書で Jabotabek の語を見出し語に挙げている初期の例と思われるものにコーネル大学の *An Indonesian-English Dictionary* 第3版 [Echols 1989] や、1991年に刊行された『新旧略語辞典』 [Ateng 1991] がある。

しかしながら、実際の見聞からすると、衰退あるいは停滞しているようにはみえない。両市とも行政上の市域の狭いことがこの背景にあると考えてまず間違いないであろう。市街地あるいは住宅地が市域を超えて拡大しているのである。とすると、この表における人口減少はドーナツ化の結果とみるべきであろう。

東部ジャワのマランは人口が増加しており、その限りではドーナツ化が起こっているようにはみえない。しかしながら、実地の見聞からすると、ここでも市域を超えた都市の拡大（とりわけ北側つまりスラバヤ方向への）が明瞭である。

その他のジャワ島の都市（1990年のリストで26位チルボン以下48位サラティガまで12都市）についてみると、スカブミを例外としてすべて順位が下がり、増加した人口もせいぜい2万までである。ジャワ島では地方都市の多くで都市化が停滞しているようにみえる。しかしながら、3つの中規模都市と同じように、ドーナツ化あるいは周辺部での顕著な人口増加の結果として停滞しているようにみえる可能性があるので、停滞と結論するのは早すぎるであろう。というのも、これらの都市はすべて、オランダ植民地時代の20世紀初めに（1905年）都市の制度ができてまもなく都市の地位を獲得したものである。そのときに市域が確定されており、その市域が維持された場合は周辺部で人口増加が起こることになるからである。この点は個別に調べる必要がある。

なお西ジャワのスカブミがジャワ島の地方都市では例外的に人口が2倍以上になり、順位も38位から35位に上げている。こうしたスカブミの発展の理由は筆者には不明であり、やはり個別に調査する必要がある。

8. 外島は州都を中心とする都市化

先に見たように、1990年のリストには外島の非州都11市が入っていたが、2000年には5市に減少している。外島の都市で2000年に新登場した8市のうち7が州都である（例外は46位ドゥマイ）。つまり外島では州都を中心とする都市化が進展している。

これは行政のもつ重要性が高まったことの反映と考えられる。州都は同時に県都であるが、当然ながら他の県都とは違う機能をもつ。一般的な行政機関や軍・警察だけでなく、州都にはたとえば国立大学や国立博物館、また放送局など文教、文化関係の施設も立地する。

1990年代末から地方分権化が進んでいる [松井2003参照]。その受け皿は州ではなく県・市であるので、州都を中心とする都市化の傾向にはブレーキがかかると推定される。しかし、それでもやはり、州都が優位の状況は変わらないだろう。

州の数は1990年に26であった（東ティモールを除く）。このうち21が外島にあった。この21の州都で2000年のリストにないのはパランカラヤ（1990年は43位）だけである。なお、1990年代末から新しい州が設立された。その州都は外島では、南スマトラ州から分離したパンカビリトン州のパンカルピナン（1990年は42位、2000年はない）、マルク州から分離した北マルク州のテルナテ（2000年50位）、北スラウェシ州から分離したゴロンタロ州のゴロン

タロ（1990年39位、2000年はない）である。ジャワ島では西ジャワ州から分離したバンテン州のセラン（両リストにない）である。

アンボンが唯一人口が減少した州都である。人口は28万から21万に激減し、順位も24位から43位に下がっている。これは明らかに1990年代末から始まった地域紛争のため、多くの住民が難民となって州の内外に流出した結果である。

州都を中心に都市化が進展する外島にあって、州都ではないバタムが45位から25位に急上昇しているのが目立つ。これは明らかにシンガポールに直結した経済圏の成長の結果である。

また非州都で唯一新登場している中部スマトラのドゥマイ（46位）は石油精製工場を中心として発展してきた町である。スマトラ内陸の多数の油田からパイプラインで原油が供給され、ここで精製される。またマラッカ海峡に面していて、マレーシアへのフェリー航路もあり内海航路の中心としても発達している。

9. 100万都市の多いこと

ここで少し視点を変えて、インドネシアに100万都市の多いことにとくに触れておきたい。世界の多くの国で、とくに発展途上国で、首位都市の圧倒的優位性が見られる。東南アジアではタイが典型的で6000万の人口の1割が首都バンコクに集中していて（バンコク周辺を含めるともっと多くなる）、他にはせいぜい20万～30万程度の町しかない。つまり圧倒的に大きな首位都市（たいていは首都）と多数の小さい地方都市と村落部からなる国が多い。

インドネシアはこの点で例外的である。大ジャカルタ以外に100万都市が6市あり、50万～100万の都市が8市ある。インドネシアは、一極集中型ではなく多極分散型の都市化ということになる。人口集中度ということでは、タイなどと違って、2億の全人口に対してジャカルタ5市は800万強で4%強、大ジャカルタ（上記の9市）でも1300万で6.5%にすぎない。

もっとも、人口規模の側面はともかくとして、政治・行政・経済・社会の様々な側面で中央＝ジャカルタ集中の傾向にあることは（これはとくに1980年代から進行した）他の諸国と同じである。先に指摘したジャワ島における100万都市の二極化はこれを反映するものである。

これに対して、1990年代末から行政の地方分権化が実行に移されており、これによってジャカルター極集中の傾向が是正されるかどうか注目される。

10. お わ り に

1990年と2000年の人口の多い50市のリストの比較から次の諸点が明らかになった。この10年間に都市化の進展が顕著であること、それが中心都市（大規模都市、中規模都市）だけでなく全国的に見られること、50市のうち12市で新旧交代があること、ジャワ島ではジャカルタの肥大化に伴う都市化が顕著であること、外島では州都を中心とする都市化であることなどである。地方都市の動向では、ジャワ島のスカブミや外島のドゥマイ、バタムなどの例外

もある。地方都市で人口が停滞していることがあるが、市街地の市域外への拡大が明らかで停滞とはいえない場合と、個別の調査研究が必要な場合とがある。

こうした諸点がその後の10年間にどう展開するかは、次の2010年センサスの結果を待ってさらに分析したい。

文 献

- 池端雪浦編1999『東南アジア史Ⅱ島嶼部』山川出版社
- 加納啓良2006「膨張する郊外都市——ジャカルタ首都圏デボック市での観察(1)」『インドネシアニューズレター』56: 2-6
- 松井和久編2003『インドネシアの地方分権化』アジア経済研究所
- 宮本謙介・小長谷一之編1999『ジャカルタ』日本評論社
- Ateng Winarno ed., 1991: *Kamus Singkatan dan Akronim Baru dan Lama*, Kanisius, Yogyakarta.
- BPS (Badan Pusat Statistik) 1992: *Statistik Indonesia 1991*, Jakarta.
- BPS 2000: *Penduduk Indonesia, Hasil Sensus Penduduk 2000, Angka Sementara, Hasil Pengolahan sampai dengan 20 Desember 2000 (Seri: RBL1.1)*, Jakarta.
- BPS 2001: *Penduduk Indonesia: Hasil Sensus Penduduk Tahun 2000: Seri L2.2*, Jakarta.
- BPS 2005: *Statistik 60 Tahun Indonesia Merdeka*, Jakarta.
- Echols, John M. and Hassan Shadily 1989: *An Indonesian-English Dictionary*, third ed., Cornell University Press.

Some aspects of the urbanization in Indonesia during the last decade of the 20th century

FUKAMI Sumio

Based on the comparison between the 1990 and 2000 populations of the biggest 50 cities in Indonesia, this paper reveals some aspects of the rapid urbanization in Indonesia of the time. The urbanization is not limited to the big cities, but is rather a phenomenon of the whole country. Of the 50 cities, 24 are located in Java and 26 in the Outer Islands (islands outside Java). Of the 50 cities of 1990, 12 had disappeared by 2000. 12 new cities emerged in 2000. In Java 4 disappeared and 4 emerged, and in the Outer Islands 8 disappeared and 8 emerged. In Java most notable is the urbanization led by the development in and around Jakarta, the capital city of the country. In the Outer Islands, urbanization is centered on the provincial capital cities. Noticeable development of Sukabumi in Java and Dumai and Batam in the Outer Islands are exceptions in this regard. Of the cities that show stagnation of population size, some clearly show population increase in the surrounding area, while some are still to be researched.